

宮前図書館 実習報告

2021年7月6日～8日に泉南中学校の生徒が図書館の仕事を体験しました！ 体験後、生徒のみなさんに仕事の感想やおすすめの本などをうかがいました。



図書館で取り組んだ仕事の感想について 教えてください！

☆返却された本を元の棚に戻す作業が楽しかったです。戻している時に図書館はこういうふうに整理されていると知りました。前までは夏休みに図書館に行った時まいごになってどこにどの本があるか、読みたい本がどこにあるか分からなかったけど、今回体験し、図書館の利用がしやすくなりました。

☆記号ラベルなどを見ながらお客様のために行動するという事は簡単なことではなく、人として行動する難しい仕事だと思った。人のために役立つという実感を知ることができた。普段は、本を借りる人で気づかなかったが、今日少し図書館で働いてみて図書館で働く人は本などをお客様のために整理していると分かったので、自分も気をつけたいと思った。

☆楽しくて配架はやりがいのある仕事でした。バーコードの読み込みはずっとやっていたいくらい楽しくて、中身確認は大変でした。友達と仕事を体験するのはとてもモチベーションが保たれ楽しくできました。

☆本の作者ごとに戻すのが難しかった。本のバーコードをピッとスキャンするのが楽しかった。本に貼ってあるシールの意味を知れて良かった。

☆バーコードをスキャンするのは楽しかった。本の整理などは番号を見て動かなければいけなく、冊数もたくさんあって大変だった。また、本のよごれなど確認する作業では自分の知っている本があったり、新しく読みたい本が見つかっておもしろかったです。

☆本をもどすのがあっていると楽しかったけどたくさん本があるので少し大変だった。ラベルや本の名前、著者名などを見て入れる時にどっちを見ればいいのか、どことどの本の間に入れたいのかを考えるのが少し大変だった。私は、本が好きなので、大変だったけど本の事をたくさん知れてとても楽しかったです。今までよりももっと本を読んだり、図書館に行ったりしたいなと思いました。読書したり勉強する場所があってびっくりしました。

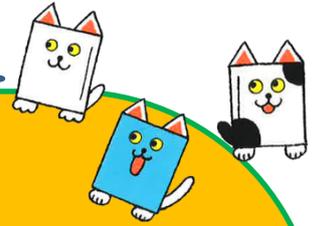
☆図書館の人達はとても優しく、教えてくれる時はその場所まで案内してくれて、分かりやすかった。大変だったことは、著者の名前を探すのが大変だった。

☆本を本棚に戻す仕事。意外とつかれた。でも、本の著者を見つけて戻すのが楽しかった。

☆本を棚にもどす作業がめんどくさかった。本のバーコードをスキャンする作業は楽だった。

☆本を棚に戻す作業では、やっていくうちに筆者名などを覚えられたり、配置などを覚えられたので、どんどん図書館の配置が頭にせいりできた。本をバーコードでスキャンする作業はとてもおもしろく、楽しくできた。

宮前図書館や杉並の図書館について、 どう思いますか？



☆本の面がそろえられていたり、棚の初めに何番から何番がこの列などが書いてあって分かりやすかったです。

☆細かいところまでお客様のことを考えており、素晴らしいと思った。また、本だけではなく、雑誌や新聞など誰もが便利に利用できる。

☆客としては静かで面白くなさそうだったけど、仕事を体験してみると、和気あいあいとしていて、とても図書館のイメージが変わりました。

☆整備されていてきれいだった。どこに何番から何番の本、ジャンル、作者などがあるか分かりやすかった。

☆宮前図書館は、僕がいつも行く方南図書館よりも広く、本の数も多くて良いと思いました。また、勉強するスペースが大きくて驚きました。

☆どこの階に行ってもかざりつけがしてあったり、いろんな本のコーナーを作っていたり、生き物や植物がおいてあって、とても見ていて楽しかったです。

☆宮前図書館は大きくてびっくりした。宮前図書館にかよいたいけれど、バス→電車から行かなきゃいけないのが大変かも。

☆宮前図書館がすごい大きい。来たいけどちょっと遠い…。方南図書館しか行かないから、ほかの所も行ってみたい。

☆ふつうの図書館。宮前図書館は広い。

☆本の種類が多く、中高生向けのコーナーが大きかったり、勉強ができる場があって、とても良いと思った。みんなに広めていきたい。

おすすめの本を教えてください！



①『ぼくがスカートをはく日』 エイミ・ポロンスキー/著

主人公が女の子の役をやるという所の勇気がみれるし、今の世界のLGBTに対する考え方が分かる。自由に生きていいことを教えてくれる。

②『恋のゴンドラ』 東野 圭吾/著

1つの話の話題だけではなく、何個も話題が1冊につめこまれており、若い子からお年寄りまで楽しめる本。

③『桐島、部活やめるってよ』 朝井 リョウ/著

登場人物が色んな視点で一つの出来事に対し、同時に起こったこととして書かれ、様々な気持ちをもつので、臨場感が凄いです。

④『ブレイブ・ストーリー』 宮部 みゆき/著

わくわくする一冊。すこしホラーな所もあり、自分も冒険した気分になれる。

⑤『あん』 ドリアン 助川/著

中学生にぜひ読んでほしい本です。自分の学校や周りにはいないかもしれないけど社会にはいろんな人がいるんだと分かります。この本ではある病気の人が出てきます。病気を差別する人も出てきます。でも自分は病気の人を理解したい。そう思える感動作品です。

⑥『見た目レンタルショップ 化けの皮』 石川 宏千花/著

見た目をレンタルする事で何かが変わると思っていた人たちが、お店の人たちのおかげで考え方や思っていたことが変化し、最後は見た目にたよらず問題が解決するのがすごくよく、自分と近い年齢の人も出てくるのでより話しにひきこまれるから。

⑦『はたらく細胞』 清水 茜/著

赤血球・白血球など、体の中にある細胞たちの仕事をテーマとした話でドタバタなひげきが起きたりしておもしろい話です。

⑧『生きてさえいれば』 小坂 流加/著

小坂さんの作品は、自分の気持ちや思いなどが含まれていて、とても読んでいて感動するからです。

⑨『ぼくときみの半径にだけ届く魔法』 七月 隆文/著

とても感動する。主人公が自分だったらと何度も考えてしまう。